



【部隊章】日本地図及び赤の輪(日の丸)で国内任務を表現し、赤の輪(地球儀)で国際任務を表現しています。月桂樹は任務完了及び隷下部隊の特殊機能を表現しています。



CRF司令部隊舎(朝霞)

創隊
5周年!

中央即応集団

Central Readiness Force

司令官統率方針
「我らここに励みて国の魁たらむ」

中央即応集団は3月28日、創隊から5周年を迎えた。創隊当初は「第1空挺団」「特殊作戦群」「第1ヘリコプター団」「国際活動教育隊」と司令部及び司令部付隊から編成されていた。1年後には、「中央即応連隊」「中央特殊武器防護隊」「対特殊武器衛生隊」も新編され、世界No1を目指すオンリーワン部隊が完成した。記憶に新しい東日本大震災での原子力災害派遣、終わりも見えない、見えないモノに立ち向かうそんな勇気と誇りに、日本のみならず世界中から感嘆の声が上がった。動的防衛力の魁であるCRF。動的防衛力の要として更に深化し進化し続けていこう。



第5代中央即応集団司令官 陸将 山本 洋

中央即応集団は、国際平和協力活動や国内における各種事態に即応するため、東部方面総監部を始め多くの方々の御支援の下平成19年3月28日に発足しました。

国内においては、これまでに12件の災害派遣を実施し、特に昨年東日本大震災による原子力災害派遣では、放水活動において警察消防を二元的に作業管理した他、除染所の運営、緊急住民避難支援等の活動を行いました。

国際活動においては、国連ネパール政治ミッションへの要員派遣を皮切りに、本年1月に部隊派遣した国連南スーダンミッションをはじめとする現在遂行中の任務を含め、13カ国に延べ約300名の部隊及び要員を派遣して参りました。

5周年を迎えた本年度末には、中央即応集団司令部及び司令部付隊は座間に移駐し、日米協力関係の更なる強化のため新たな役割を担うこととなります。引き続き、集団として現任務を遂行しつつ国の魁たるの気概を堅持し、国民及び国際社会の期待に十分応えるべく鋭意努力する所存です。

部隊等説明

- 中央即応集団司令部**
国内外の部隊を指揮
- 中央即応集団司令部付隊**
司令部の管理・業務支援、通信支援を行う
- 第1空挺団**
落下傘降下により各種の空挺作戦を遂行する部隊
- 第1ヘリコプター団**
陸上自衛隊最大のヘリ部隊。要人空輸も行う部隊
- 中央即応連隊**
国際平和協力活動等の先遣部隊として行動する部隊
- 中央特殊武器防護隊**
汚染された地域を偵察し生物剤や化学剤で無毒化する部隊
- 対特殊武器衛生隊**
生物剤感染患者の応急治療を実施する部隊
- 国際活動教育隊**
国際活動に従事する上での様々な教育等をする部隊
- 特殊作戦群**
ゲリラや特殊部隊の攻撃に対処する部隊



CRF5年の歩み

- 19年3月28日 CRF編成完了。初代司令官・山口淳秀 陸将着任
- 3月30日 国連ネパール政治ミッション(2011年1月)
- 3月31日 朝霞駐屯地に於いて発足式典挙行
- 7月16日 新潟県中越沖地震災害派遣
- 8月24日 グラン高原派遣輸送隊(24次隊)
- 9月12日 インドネシアスマトラ南部地域地震対応
- 10月29日 中央即応集団演習(関東・九州)
- 11月17日 自衛隊統合演習(指揮所演習)
- 12月4日 中央特殊武器防護隊(新編)
- 12月17日 中央特殊武器防護隊(新編)
- 12月26日 中央特殊武器防護隊(新編)
- 12月26日 対特殊武器衛生隊(新編)
- 12月26日 第1ヘリコプター団(改編)
- 12月26日 岩手・宮城内陸地震対応
- 12月26日 国連スーダンミッション司令部要員派遣(2011年9月)
- 12月26日 洞爺湖サミット支援
- 12月26日 第2代司令官・柴田幹雄 陸将着任
- 12月26日 グラン高原派遣輸送隊(26次隊)
- 12月26日 グラン高原派遣輸送隊(27次隊)
- 12月26日 派遣海賊対処行動航空隊隊員派遣
- 12月26日 中央即応集団(部隊展開)演習指揮所訓練
- 12月26日 グラン高原派遣輸送隊(28次隊)
- 12月26日 インドネシア国際緊急医療援助隊派遣
- 12月26日 自衛隊統合演習参加(実動)
- 12月26日 第3代司令官・宮島俊信 陸将着任
- 12月26日 ハイチ国際緊急援助隊派遣(2010年2月)
- 12月26日 国連ハイチ司令部要員派遣
- 12月26日 国連ハイチ派遣国際救援隊派遣
- 12月26日 グラン高原派遣輸送隊(29次隊)
- 12月26日 グラン高原派遣輸送隊(30次隊)
- 12月26日 パキスタン国際緊急航空援助隊派遣(2010年10月)
- 12月26日 国連東ティモール統合ミッション派遣
- 12月26日 APEC会議支援
- 12月26日 グラン高原派遣輸送隊(31次隊)
- 12月26日 東日本大震災に伴う災害派遣・原子力災害派遣
- 12月26日 第4代司令官・藤崎 護 陸将着任
- 12月26日 グラン高原派遣輸送隊(32次隊)
- 12月26日 国連南スーダンミッション司令部要員派遣
- 12月26日 第5代司令官・山本 洋 陸将着任
- 12月26日 グラン高原派遣輸送隊(33次隊)
- 12月26日 国連南スーダンミッション主力要員派遣
- 12月26日 CRF司令部及び司令部付隊 座間に移駐

CRF設立の意義

陸上自衛隊は、ゲリラや特殊部隊による攻撃等の各種の事態が生じた場合に事態の拡大防止等を図るため、国内においては機動運用部隊や各種専門部隊を管理し事態発生時に各地に部隊を迅速に派遣できるように、また国外においても国際平和協力活動等のための部隊を迅速に派遣できるよう「中央即応集団」を設立。

- UNDOF (国連兵力引き離し監視隊) 1996.2~
 - UNMIN (国連ネパール政治ミッション) 2007.3~2011.1
 - UNMIS (国連スーダンミッション) 2008.10~2011.9
 - MINUSTAH (国連ハイチ安定化ミッション) 2010.2~
 - UNMIT (国連東ティモール統合ミッション) 2010.9~
 - UNMISS (国連南スーダンミッション) 2012.1~
 - DAPE (派遣海賊対処行動航空隊) 2009.6~
 - 国際緊急援助隊 (インドネシア、ハイチ、パキスタンへ派遣)
- (注・日本の国際平和協力活動は平成4年から行っている)



福島第1原発へ特殊車両による放水

国内任務



- 中即連** 中央即応連隊
建物内を連携しつつ前進する隊員
- 東富士演習場の空に舞う空挺隊員**
建物内の掃討を行う隊員
- 中特防** 中央特殊武器防護隊
汚染地域の偵察訓練を実施する隊員
- 1空挺団** 第1空挺団
砂盤を使い入念に戦前予行を行う空挺レンジャー学生
- 国際救** 国際活動教育隊
訓練風景
- 対特衛** 対特殊武器衛生隊
部隊転用による収容施設の撤収
- 駐屯地内における収容施設(エアドーム)の展開**
- 1ヘリ団** 第1ヘリコプター団
ヘリポン(作戦部隊を作戰地域へ)
- UH-60からのリバングにより降着地域へ**

国際任務



- UNMISS**
水の汲み上げ作業を実施している隊員
- UNDOF**
道路の舗装作業を実施する隊員
- MINUSTAH**
側溝内の塵埃を除去する隊員
- UNMIT**
現地担当者と調整中の隊員
- UNMIT**
東ティモールの人と
- UNMIT**
業務調整中の隊員
- UNDOF**
解体した瓦礫をダンプに積載する隊員
- DAPE**
兵站業務についてインド隊担当者と調整中の隊員
- UNMIT**
海賊対処行動中
- UNMIT**
夜間巡察中の警務隊員
- 国際緊急援助隊**
ハイチ国際緊急隊活動
- 国際緊急援助隊**
パキスタン国際緊急隊活動